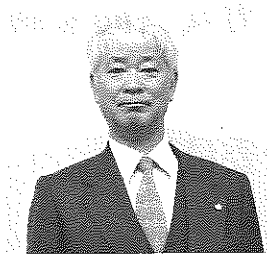


# ごあいさつ



山形大学における男女共同参画の一層の発展を目指して

山形大学理事・副学長  
山形大学男女共同参画推進室長  
**阿部 宏 慈**

本学では、平成21年文部科学省科学技術振興調整費（JST）「女性研究者支援モデル育成」事業における「山形ワークライフバランス・イノベーション」の採択を契機に、男女共同参画推進室を設置、平成22年には平成31年までの10年間にわたる「山形大学男女共同参画基本計画」を策定し、女性研究者の支援や女性研究者比率の向上などを含めて、全学における「ワーク・ライフ・バランス」の改善に積極的に取り組んで参りました。

その一環として、本年も全学的な意識改革を図り、現場の声に耳を傾けるため、学長、学部長と女性研究者との意見交換の場を設定し、必要な支援の在り方等について情報を共有すべく努めました。

また、研究者のみならず、全学の職場における「ワーク・ライフ・バランス」の改善をめざして、「女性教職員の交流のためのランチミーティング」を開催し、出産、育児、さらには介護といったライフイベントを巡る職場環境改善などについて意見を交換しました。

昨年4月には、小白川キャンパスにも保育所（愛称：のびのび）が開設され、前年10月からの園児募集とともに、現在13名の乳幼児を受入れ、託児サポーター制度とともに、教職員の育児・子育て支援の実をあげはじめております。

また、本年2月にはグローバル化時代における男女共同参画の問題を考える国際シンポジウムを開催し、地域や世界と連携する男女共同参画推進の在り方について共に考える機会を設けました。

学生や教職員への取組みの啓発活動としては、他にも、男女共同参画フェスタでのパネル展示や、小白川図書館への男女共同参画推進コーナーの設置などを行いました。

とはいえ、上記の「基本計画」に掲げた、特に女性研究者比率向上のための目標実現には道いまだ遠しといった状況です。特に理系分野における女性研究者への支援については、学部における意見交換等でも様々な困難も指摘されたところであり、今後は、如何にして女性研究者の活躍できる環境を整えることが可能か、一層の取組みを進めたいと考えております。他にも女性管理職の比率の向上など、課題はまだ数多く残されております。

それらの課題の解決のためには、本学のみならず、周辺自治体や企業、あるいは他の研究機関等多くの方々のご理解とご支援をいただく必要があります。

今後とも、本学の男女共同参画推進にご協力をお願いし、挨拶と致します。

平成27年3月30日